平成 27 年 9 月 29 日（火）
外部評価会議録

稲沢市行政改革推進委員会　会議録

【日　時】平成 27 年 9 月 29 日（火）　午後 1 時 30 分～午後 4 時 47 分
【場　所】稲沢市役所（3 階）　議員総会室

【出席者】稲沢市行政改革推進委員会委員（敬称略）

栗 林 芳 彦	名古屋文理大学情報メディア学部 情報メディア学科教授・地域連携センター長
村 上 浩 美	愛知文教女子短期大学幼児教育学科准教授
萩 原 聡 央	名古屋経済大学法学部准教授
伊 藤 賢 治	一般社団法人稲沢青年会議所元理事長

【事務局】

眞 野 宏 男	副市長
篠 田 智 徳	市長公室長
足 立 直 樹	市長公室企画政策課長
大 口　伸	企画政策課主幹
大 屋　将	企画政策課主任
山 田 知 華	企画政策課主任

【傍聴者】　１名

【議事次第】
1　あいさつ
2　議題
　行政評価の外部評価について
⑴　環境基本計画推進事業（経済環境部環境保全課）
⑵　ごみ減量啓発事業（経済環境部資源対策課）
⑶　観光協会補助金事業（経済環境部商工観光課）

【会議の概要】
1　あいさつ
〇副市長あいさつ
　本日はお忙しい中、稲沢市行政改革推進委員会にご出席賜り、誠にありがとうございます。また、委員の皆様方におかれましては、8 月に開催しました委員会におきまして、活発なご議論ご意見をいただいたことに改めてお礼申し上げます。
　さて、我が国の景気は改善テンポにばらつきもみられるものの、緩やかな回復基

調が続いています。一方で、その先行きについては、中国経済の混迷をはじめとした海外景気の下振れなど、我が国の景気を下押しするリスクや金融資本市場の変動が懸念されます。また、今日は中国経済の減速感を受けてニューヨーク株式市場が全面安となり、東京株式市場でも 1 年 8 ヶ月振りに 17,000 円を切るのではないかと懸念されています。また、ここ 2､3 日の所でドイツのフォルクスワーゲン社のデータ偽装問題が発露しており、我が国を取り巻く海外情勢が混迷の度合いを示しています。こうした社会情勢が、我が国の経済あるいは市政への影響がないか、引き続き注視していく必要があります。

このような状況の中、本市においては市内の主要企業の調子が良くないことや、法人市民税の一部国税化などの影響があり、法人市民税をはじめとする市税収入が伸び悩んでいます。個人市民税につきましては、賃金、賞与などに若干の改善があり伸びが見られるものの、固定資産税については横ばいの状況です。さらに、地方交付税における優遇特例措置の段階的縮減などにより、厳しい財政状況が見込まれます。今年度は合併算定替えの優遇措置と一本算定したものとの乖離が 17 億円あります。平成 33 年度からはその 17 億円から 20 億円が毎年一般財源から減っていきます。

そうした厳しい財政情勢の中、人口減少対策や老朽化が進む公共施設などへの対応、東西幹線道路の整備、国府宮駅周辺の新たなまちづくり、子育てや高齢者の支援など、稲沢市の将来に向けて取り組まなければならない事業が山積しており、市政の健全な運営を維持しながら活性化を図り、時代の行政ニーズに的確に対応していくためにも、不断の行政改革を推進していく必要があります。

本日、委員の皆様方にお願いいたします「外部評価」につきましては、行政内部の評価に対して、行政外部からの視点で事業を評価していただくことにより、効率的・効果的な行政運営に資するものです。

委員の皆様方には、市民の目線、第三者の視点に立った評価をお願いしますとともに、忌憚のない御意見・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。

○栗林会長（班長）あいさつ

名古屋文理大学の栗林です。本日の外部評価の班長を務めさせていただきます。

皆様の御協力の下、滞りなく会議が終わることを望んでいますので、よろしくお願いします。

2　議事

行政評価の外部評価について

［班長］
それでは議事に入りたいと思います。
本日の議題である外部評価の実施について、事務局から説明をお願いします。

＝事務局＝
外部評価の実施方法について資料に基づき説明

◎外部評価

1　環境基本計画推進事業

［班長］
ただいまから「環境基本計画推進事業」について、外部評価を行います。
事業担当課は、事務事業の概要や内部評価の考え方などについて説明してください。説明時間は 10 分です。

－事務事業の説明－

経済環境部次長兼環境保全課長　　河村　英二
経済環境部環境保全課主幹　　安藤　誠亮
経済環境部環境保全課主幹　　粂田　裕子

－質疑応答－

［委員］
「さわやか隊」について、地域のごみを拾うなどの清掃ボランティアをされているようですが、それぞれの地域ごとに自治会などでもそのような活動はしていないのでしょうか。また、その活動に対する補助などはあるのでしょうか。もしあるのであれば、活動が重複していないでしょうか。

［環境保全課］
自治会の活動としては､行政区毎に区長や環境委員を中心とした組織があります。そこで環境を含めた様々な活動をしてみえ、そういった区の活動に対して　市から補助が出ています。
一方で、さわやか隊の活動としては、あくまでボランティア活動とういう形で、行政区単位で加入していただいているところもありますし、各種団体、企業と、幅広く参加していただいています。行政区毎の活動と一部重複するところもありますが、昨年度末の時点で個人を中心とした団体が 103 団体、企業の団体が 71 団体、計 174 団体に参加していただいています。

［委員］

さわやか隊の活動は、行政区毎の活動と重複する部分もあるが、ボランティア活動として行われているということですね。

もう一点、事務事業評価シートのロジックモデルについてですが、活動・手段の欄に「さわやか隊の募集」と「温室効果ガスの排出量の減量」が、中間成果の欄に「公害苦情の受付件数の減少」が、最終成果の欄に「市民満足度の上昇」が、それぞれ記載されています。

手段が「さわやか隊の募集」ということであれば、中間成果は「活動日数がどれくらい増加したか」が適切ではないでしょうか。それを踏まえて、「公害苦情受付件数の減少」が最終的な成果になるかと思います。これに関して、募集した人たちがどれくらい活動したのか、実績を教えてください。

次に、「温室効果ガスの排出量の減量」についてですが、減量自体は結果であって活動・手段ではなく、稲沢市が市内の事業者に対して排出抑制するための補助事業を実施することが活動・手段ではないでしょうか。

この 2 点について、どのように考えているのかを教えてください。

［環境保全課］

1 点目のさわやか隊の活動実績ですが、1 年間の活動報告件数は 707 件です。主なものは雑草、樹木の張り出し、不法投棄、野焼きなどの報告と清掃活動です。

2 点目のロジックモデルについてですが、市としても温室効果ガスの排出抑制に取り組んでいますので、一つの活動指標としてこのように記載しています。

［委員］

回答内容は理解できました。

ただし、指標の書き方として、各種補助事業の活動を増やしていくことが活動・手段であって、それによって中間成果として、例えば市内のエコカーが何台増えたといった結果があって、最終成果として市民満足度の上昇につながるように記載したほうが、より分かりやすいのではないかと思います。

同じことが「さわやか隊員」にも言えまして、実績などが説明補足資料の中に記載されていますが、そうした指標があるならばこれを中間成果として書いておいて、最終的に「公害苦情の減少」につながるという流れにしたほうが分かりやすいし、見やすい事業評価シートになると思います。

［委員］

事業評価シートのロジックモデル内に記載のある市民満足度という指標ですが、平成 28 年度の目標値が 59％となっていますが、随分前に達成されています。毎年

お金を使って活動しているのに、割合が増えていかないのは市民としては納得ができないと思います。

「昔設定した目標に既に到達しているので、これ以上努力しない」という感じにも読めてしまいます。そのため、目標値を見直すタイミングが5年に1回というのは、あまりにスパンが長過ぎると思います。担当課としてこの59%という数値が高いのか低いのか、どのように捉えてみえるのかお聞きしたいと思います。

また、先ほど他の委員から指摘がありましたが、ロジックモデルが全くロジカルでないという意見は私も同感です。

次に、排出ガスの減少に向けて様々な事業を実施していると思いますが、これらが費用対効果として良いものなのか、お金を使うのであればこれ以外の選択肢はそもそもないのか、効果的に温室効果ガスを減らすにはどのようにお金を使うことが望ましいのか、担当課として検討をしていることがあれば教えてください。

［環境保全課］

一つ目の市民満足度についてですが、第5次稲沢市総合計画の策定時に、平成18年度の現況値が39%であったため、平成29年度の目標値として59%という数値を設定しました。結果として平成22年度が50%、24年度が54%、26年度が59%となりましたが、目標を見直す平成 24 年度のタイミングではまだ目標に届いていなかったため、継続して努力してきたところです。

次に二つ目の費用対効果の面ですが、愛知県、特に濃尾平野におきましては、再生可能エネルギーを普及させるには太陽光が一番適していると考えられます。国も固定価格買取制度を設けて、再生可能エネルギーの普及を目指しています。市としてもこういった部分に補助していくことで普及の促進を図っていきたいと考えています。

［委員］

評価シートのロジックモデル内に記載のある温室効果ガスの排出量については、実測値ではなくて計算値ですか。

［環境保全課］

はい。電気の使用料やガソリンの使用料、ごみの焼却量などから算出した数値です。

［委員］

さわやか隊について質問します。資料に記載されている活動報告件数は、清掃活動や不法投棄の報告件数であって、活動件数ではないという説明がありましたが、

活動件数はどれくらいあるのですか。

また、貸与する物としてベスト、帽子、懐中電灯がありますが、これは登録すると１人１組貸与されるのでしょうか。先日、エコクラブのホームページを見たのですが、ベストは活動していることがよく分かり、活動をアピールする上でも良いものだと思いました。しかし、帽子がキャップ型でした。女性はあまりキャップをかぶりません。女性市民のかたから「この帽子はかぶりたくない」といった不満、意見などは出ていませんか。私だったら、この帽子のデザインはかぶりたくないと感じます。市民の税金を使うものなので、かぶらない帽子を作るのはもったいないと思います。

［環境保全課］

一点目のさわやか隊の活動件数ですが、174 団体あって、一月に最低 1 回は活動していただきます。また年 12 回の活動に加え、11 月 26 日の統一行動に必ず参加していただいています。団体によって月に 2 回活動されたり、団体内で班分けをして各班毎に毎週活動されたりと、様々な活動形態があります。今回お示しした 707 件の報告件数は、何らかの対応をしてほしいと市に報告があったもののみになりますので、全ての活動件数はそれ以上になると推察します。

２点目のキャップに対する女性の評判ですが、メッシュになっているので冬に寒いという声を聞いています。その他に日焼けを防ぐために、首筋の所に布を付けて対策されているということも聞いています。

予算の問題もあり、様々なデザインのものをつくることはできませんので、女性が多い団体では各自で工夫をしていただいているのが現状です。

［委員］

エコクラブのホームページを確認して良かったと思ったことの１つとして、写真入りで活動報告がされていることが挙げられます。まだ参加していない方も活動内容がイメージできて、よく理解できるので良いことだと思いました。

その活動報告の中で、はさみ棒や軍手などがあると便利だという意見が出ていました。予算の問題があるのならば、帽子などは各自でかぶってもらって、本当に必要な物を貸与した方がいいと思います。貸与する物品の見直しが必要だと思います。

［環境保全課］

貸与品として、懐中電灯などは団体ごとに貸与しており、帽子やベストは個人ごとに貸与しています。なお、長年使用して汚損した場合には交換にも応じています。はさみ棒など、ごみ拾いをし易くする道具については、活動機会の多いさわやか隊員がある程度増えてきた段階で徐々にシフトしていければと考えます。

［委員］
事務事業評価シートのロジックモデルを拝見し、事業の最終成果が市民満足度であることに違和感を感じました。
事業目的として「良好な環境を次世代へ引き継いでいくこと」とあり、そのために「何を・いつまでに・どうするか」が書かれていますが、最終成果を市民満足度にしてしまうと、その満足度の数字が高いのか低いのかの判断基準が無く、よく分からないものになってしまいます。「何を・いつまでに・どうする」、その結果として具体的に「どうなるのか」を最終目標として掲げてほしいと思います。

［環境保全課］
環境基本計画推進事業は市全体、並びに各課で担当している多くの環境事業を環境保全課で取りまとめているものです。
そのため、個々の事業成果を一つ一つ取り上げることは難しいため、市民満足度という指標を最終成果として選定したものです。

［委員］
市民満足度の算出方法を教えてください。

［環境保全課］
2 年に 1 回、市民 2,500 人を対象に市政世論調査を行っており、その中の「公害や散乱ごみなどがなく、環境にやさしいまちであると思う」という設問に対しての回答結果です。

［委員］
なぜお聞きしたかというと、他の事業でも「市民の声」や「市民満足度」を目標や根拠にしているケースが多く見られます。その数字の中には、有効回答数が非常に少なかったりするなど、根拠として十分でないと感じることがあります。今回は 2,500 人を対象にしたということですが、なるべく多くの有効回答を取っていくことで、統計的に精度の高いものにしていただきたいと思います。

［委員］
この事業は、取組みが多岐にわたっていて、一つの評価基準に集約することが難しいと理解しました。そうであるならば、複数の評価基準を設けるなど、それぞれの視点から評価していくことが必要ではないでしょうか。
また、町の美化などは、それを測る物差しを設定する事が難しいため、市民意識を指標とすることも理解できますが、例えば市民からのクレーム、要望、苦情の数

などの件数を指標として設定することも一つの方法ではないでしょうか。
　事業を効果的に運営していくためには、その事業をどのように評価していくか、様々な角度の物差しを持っていることが必要だと思います。

［班長］
　以上で質疑応答を終了します。
　各委員、外部評価結果記入シートへの記入をお願いします。

－委員自己判断－

－最終評価・講評－
［班長］
　シートへの記入が終わったようですので、各委員一斉に評価結果の札を挙げてください。

（事務局集計）

［班長］
　評価結果を報告させていただきます。
　集計の結果、全員が「Ｂ」評価となりましたので、委員会の最終評価は「Ｂ」とさせていただきます。
　それでは、委員の皆様から評価結果に対するコメントをお願いします。

［委員］（評価結果：Ｂ）
　事業そのものは良いものですので、継続してほしいと思います。
　行政区の清掃活動と本事業の清掃活動が重複している部分があるのであれば、どこかで統合できると経費の節減につながるのではないでしょうか。事業の進め方を検討するといいと思います。

［委員］（評価結果：Ｂ）
　本事業は必要で、有意義なものであると思いますが、補助金額は妥当であるのか、市民への広報の仕方は適切であるかを毎年検討し、見直しをしていく必要があると感じました。

［委員］（評価結果：Ｂ）
　事業の意義は十分理解でき、必要であると思います。その一方で実施手法の妥当

性や評価の基準については多面的な検討をすると良いと思います。

［委員］（評価結果：Ｂ）
　評価をする立場で客観的にこの事業を見ようとした場合、指標、判断基準が曖昧であると感じました。抽象的な表現ではなく、もう少し細部まで具体的に説明していただくと、意見もしやすくより良いものになると思いました。

［班長］
　以上で「環境基本計画推進事業」の外部評価を終了します。
　ありがとうございました。

［事務局］
　ありがとうございました。
　次の評価は 14 時 45 分から開始させていただきます。

（休　憩）

２　ごみ減量啓発事業

［班長］
　続いて「ごみ減量啓発事業」について、外部評価を行います。
　事業担当課は、事務事業の概要や内部評価の考え方などについて説明してください。説明時間は 10 分です。

－事務事業の説明－

　経済環境部資源対策課長　　林　利彦
　経済環境部資源対策課主幹　　東野 裕文
　経済環境部資源対策課主査　　寺澤 佳秀

－質疑応答－

［委員］
　家庭ごみが多いということですが、市民がごみを減らすモチベーションを高める方法として、「ごみを減らすことで節約できた財源を使えば、これだけできる」ということが分かれば、やる気が出ると思います。
　そこで、ごみを 1ｔ減らすといくらの処理費用が減らせるのかを教えてください。
　次に、段ボールコンポスト講座以外にどのような内容の講座を開催しているかを教えてください。

［資源対策課］

始めに講座の内容についてお答えします。出前講座を実施しており、愛知文教女子短期大学で行った講座では、ごみ減量、節電など環境に対して良いとされる取組み全体についてお話しいたしました。また、東緑町地区老人サロンで行った講座では、ごみの分別方法の再確認を中心にお話しました。皆さんから一番意見が多かったのは、「プラごみ」と呼ばれるプラスチック製容器包装の分別が分かりにくいということでしたので、この説明を中心にクイズや質問を交えながら実施しました。

次に、処理に係る 1ｔあたりの費用についてですが、手元に資料がなくお答えできず申し訳ございません。関連した取組みになりますが、雑がみについては 1 kg 5 円で売れますので、平成 26 年度から「燃やせば税金がかかり、リサイクルに出せばキロ 5 円になり、市民の皆さまに還元できる」ということを区長さんへの依頼を始め、広報などでも市民へ広く周知した結果、多少雑がみの回収量が増加したという実績があります。

回収量の確認方法として、年に 4 回「組成調査」を実施しています。この調査は、ある一定の回収場所で、可燃ごみや不燃ごみなど、ごみ袋内にどんなものが入っているのかを確認し、回を重ねる毎に雑がみがどれだけ減ったかを調べるものです。また、現在各地区で分別収集をしていただいていますが、その際に雑がみがどれだけ増えているかも確認しています。

［委員］

事務事業評価シートのロジックモデル内にある最終成果の達成率についてですが、「最終処分量の削減」は目標の量を下回ることで達成したことになると思いますので、平成 26 年度の達成率が 96％という結果は表記方法を改めた方がいいと思います。

次に、説明補足資料 6 ページの効率性の観点の欄で「現在の啓発手段は決して十分なものとは言えない」との記載があることや、先ほどの説明中も話があったように、市の広報では掲載回数などに様々な制限があることから、費用をかけずにこれ以上の啓蒙・啓発活動を行うことには限界があるという認識をお持ちのようですが、今後どのように広報していくか、もう少し詳しく説明してください。

［資源対策課］

まずは達成率の表現が不適当であることについて、おっしゃるとおりだと考えますので見直します。

2 点目の「啓発機会の確保」につきましては、昨年度から啓発活動と啓発手段の拡大にできる限り取り組んでいくこととしています。例えば生ごみの関係ですと、段ボールコンポストの講座を行った後、参加者から質問をいただいたり、参加者の

ご家庭に伺って実際の取組みを写真に撮らせていただき、それを facebook に掲載することで、他のご家庭でも取り組んでいただけるよう促しています。

また、新たな啓発手段として、現在稲沢市では公式 twitter を導入していませんので、こうした媒体が市として有効活用できるかといったことも検討しています。他にも「ジモティー」というリユースのサイトがありますが、この地域ではまだあまり利用されていません。こうしたサイトとタイアップする取組みが稲沢市として可能かどうか、ごみ減量に有効か検討しつつ、一つずつ取り組んでいきたいと考えています。

また、現在教育委員会に対し各学校の教室ごとに「残飯の量をどれだけ減らせるかの競争をしてもらえないか」という提案をしています。これは、「小さな頃からごみ減量の教育をしていく。」というもので防災と同じ観点に基づくものです。幼児期からそうした教育をすることで、子どもたちが将来大人になった時にも意識を持ってもらえるように、こども課、教育委員会とも連携して進めていきたいと考えています。

［委員］

「三つ子の魂百まで」という作戦ですね。いろいろな取組みを考えているということで理解しました。

［委員］

既に十分な啓発に取り組んでいるように見受けられます。

他市で子どもに対する啓発が行われていますので、この場で提案しようかと思ったのですが、既に取り組まれているようですので、今後成果が出てほしいと思います。

［委員］

特に質問は無いのですが、一つ目の事業の際にも気になったように、市民満足度を指標としている点について、どのように評価すべきか疑問に感じました。

不適切かもしれませんが、「ごみを減らすと、これだけ儲かる」というメッセージを発信したり、給食の残飯の量を競い合わせてゲーム感覚で減らすという取組みは、おもしろいと感じました。

綺麗ごとの啓蒙啓発もいいと思いますが、メッセージを工夫するなど、市民に身近に感じてもらえるような形で取り組んでいくと、より効果も出やすいと思います。

［委員］

分別もそうですが、水切りの重要性があまり市民に浸透していないと思います。

例えば Facebook で、野菜屑に水が付かないようにする方法とか、効率の良い水切りの仕方を取り上げるといいと思います。

また、私もこのような啓発活動は子どもから行うことが重要だと思います。既に教育委員会に提案しているという話ですが、詳細は教育委員会頼みということではなく、例えばPTAの集まりなどで水切りの提案をしたり、教育委員会を通じて先生や給食調理員に集まってもらい水切りの重要性について説明し、その後、先生たちから子どもたちに伝えてもらうなど、さらに細かく要求してはどうかと思います。

［資源対策課］

水切りにつきましては、専用の器具があります。その器具を現在市民モニターという形で３種類程度試していただき、どれだけ減量できるか体験していただいています。この水切りや段ボールコンポストなど、ごみの減量につながる選択肢をいろいろ提示することで、各家庭に合った方法で取り組んでいただければと考えています。

また今年度、愛知文教女子短期大学と連携して３月３日に「エコクッキング」という一般向けの講座を開きます。このイベントでは、ごみを出来る限り出さないような形で料理を作ります。

［班長］

以上で質疑応答を終了します。

各委員、外部評価結果記入シートへの記入をお願いします。

－委員自己判断－

－最終評価・講評－

［班長］

シートへの記入が終わったようですので、各委員一斉に評価結果の札を挙げてください。

（事務局集計）

［班長］

評価結果を報告させていただきます。

集計の結果、「Ａ」評価が２名、「Ｂ」評価が２名となりました。同数となりましたので、委員会としての最終評価を決定するため、協議に入りたいと思います。それでは委員の皆様、コメントをお願いします。

［委員］（評価結果：Ａ）

事業そのものは計画どおり実施すべきだと考えました。

評価シート内にも「効果的な手段を用いて現行の啓発事業を継続する」、「啓発内容を随時見直し・更新する」と記載されています。事業の必要性もあり、現在の取組みで効果も出ており、なおかつ今後も引き続き改善に取り組まれるということですので、計画どおり事業を進めることが妥当だと思います。

［委員］（評価結果：Ｂ）

事業自体は良いものだと思います。啓発の仕方の中で市民に向けたメッセージとして、お金の節約のことにも触れていただいたりすると、市民の気持ちも高まると思います。また、学校でも積極的にごみ減量の教育を行ってほしいと思います。

［委員］（評価結果：Ａ）

取組みの結果、着実にごみの量が減っており、確かな実績があること、柔軟な発想で様々な啓発方法にチャレンジしていることが評価できると考えました。

［委員］（評価結果：Ｂ）

「Ａ」評価とすべきか「Ｂ」評価とすべきか悩んだのですが、この事業は現在試行錯誤しながら、日々改善工夫している点が良いと思いました。「Ａ」評価にしてしまうと、今実施していることを継続していくというイメージだったので、「計画・実行・検証・改善」という流れを止めないようにしてほしいという意味であえて「Ｂ」評価にしました。

［班長］

事業に取り組む現在の姿勢が高く評価されており、また常に改善を意識している点も皆さんの評価の大部分を占めていると思います。

［委員］

「Ａ」評価とすると、現状維持の様なイメージに思えますが、評価シート内の改革・改善計画の欄に記載されている「随時見直し・更新する」という部分に期待し、「その計画どおりやってもらう」という考えで「Ａ」評価という整理でもでいいではないでしょうか。

［委員］

見直し姿勢も計画のうちだという整理であれば、「Ａ」評価で問題ありません。

［班長］
協議がまとまりましたので、委員会の最終評価は「Ａ」とします。
今のままで良いということではなく、今後も改善・工夫して取り組んでいただくことを前提にこの評価にしますので、よろしくお願いします。
以上で「ごみ減量啓発事業」の外部評価を終了します。
ありがとうございました。

［事務局］
ありがとうございました。
次の評価は 15 時 35 分から開始させていただきます。

（休　憩）

３　観光協会支援事業

［班長］
続いて「観光協会支援事業」について、外部評価を行います。
事業担当課は、事務事業の概要や内部評価の考え方などについて説明してください。説明時間は 10 分です。

－事務事業の説明－

経済環境部商工観光課長	澤田　雄一
経済環境部商工観光課主幹	松尾　俊明
経済環境部商工観光課主査	戸田　一宏

－質疑応答－

［委員］
稲沢市として観光事業の位置付け、重要性はどのように考えていますか。

［商工観光課］
地域の発展、活性化のための一つの方法だと考えています。

［委員］
稲沢市に観光は必要ないとは考えていませんが、この地で生まれ育った市民の感覚として、稲沢市が観光地であると感じたことは今までありません。また、ここまでの説明を聞いた限りでは、稲沢市をどんなまちにしたくて、そのためにこの事業がどのような位置付けにあるのかが分かりません。今回の評価は補助事業が対象で

すが、担当課として何をどうしたいのかという大きな枠組みをまず教えてください。

［商工観光課］

稲沢市第 5 次総合計画の中で「観光には本市を広く PR し、市民の一体感を醸成する役割が期待されます。観光協会を中心に行政、商工会議所など関係機関や市民が一体となって、観光の振興に取り組む必要があります。」と市の方向性が記載されています。これに基づき、平成 20 年度から 29 年度までの稲沢市観光基本計画を策定して、現在事業を実施しています。

委員のおっしゃるように、京都など著名な観光地のような大きな資源は稲沢市にはありませんが、小さいながらも一つ一つの資源を地道に PR しつつ観光を産業にまで発展させ、誘客を図りながら、まちに賑わいを持たせていきたいという考えで事業を進めています。

［委員］

計画に基づいて進めているということは理解しました。

市民と連携して地域を整備したり、祭りを開催したりすることは、市内の連帯感を高める効果があると思いますが、市の観光事業はそういった連携を深めることが狙いなのか、市外からの来場者を増やして観光収入を得ることを狙いとしているのか、どこに軸足を置いているのかを教えてください。

［商工観光課］

将来的には観光収入の確保につなげていきたいと思いますが、観光協会は任意団体であり、まだ組織として脆弱で十分ではありません。まずは組織強化を図りながら充実に努め、いずれは観光協会を中心に民間の活力を取り入れながら、民間のご意見を伺いながら地域の魅力の再発見、発信につなげていければと考えています。

［委員］

事業名からして、観光協会を支援する事業ですので、この事業が妥当かどうかを評価する際に「観光協会をいつ法人化するか」、「将来的にどんな役割を果たしてほしいのか」が見えないと、観光協会にどのように支援することが適切なのかが判断できません。

「観光協会をいつまでに、どのようなモデルにするのか」という考えが示されないと評価がしづらいと考えます。

［商工観光課］

今の段階でいつまでに法人化するということは申し上げられませんが、早急に検

討したいと思います。

［委員］
　観光協会に対して、商工観光課からはどのような指示や依頼をしているのですか。

［商工観光課］
　月に 1 回、観光協会と商工観光課で事業内容の打合せなど、会議を開催しています。その中で、「来年度の事業はこのようにしてください」とか、今後の予定なども話し合っています。

［委員］
　観光協会は市に事業計画や事業報告をしているのでしょうか。

［商工観光課］
　補助金申請時に計画を提出し、年度終了時には実績報告も受けています。

［委員］
　観光協会の事業に関して、市の意向はどれくらい反映されるものなのでしょうか。

［商工観光課］
　先ほどの説明中にも申し上げたとおり事業内容が形骸化していますので、市の観光ガイドブックの作成やイベントの実施、いなッピーグッズの作成や販売に力を入れてもらうよう、市からお願いしています。
　また、観光協会への支援事業費については、商工観光課でヒアリングを実施し、協会と商工観光課と合意の上、市の財政当局に予算要求しています。

［委員］
　観光協会の支援事業について、稲沢市として考える最終目的は何ですか。
　これまで 10 年間ずっと支援し続けていますが、代わり映えのない状態です。今後も支援し続けると思うのですが、この先何を稲沢市として目指すのかを教えてください。

［商工観光課］
　現在市や商工会議所が事務局となっている観光事業を組織強化した観光協会に移管し、まつり事業の精査も行っていただきたいと考えています。

［委員］
この事業の狙いは、観光協会の組織強化ということでよろしいでしょうか。
つまり、「観光協会支援事業」は観光協会の組織強化を図り、今後法人化を進める中で財源の独自性を高め、自分たちでしっかり運営していけるようにすることが目的と捉えていいですか。

［商工観光課］
はい。そのような実態であると認識しています。

［委員］
現在の観光協会は組織として弱いため、今後も支援していかないと組織の強化ができないと理解しました。

［委員］
開催するイベント毎に来場者の年齢層は異なると思いますが、若い人たちは来ているのでしょうか。
短大生の現状としては、学校に来るために稲沢市へ行くけど、イベントのためにはわざわざ行かないと聞いています。そもそもどんなイベントをしているのか知らないし、参加もしたいと思わないそうです。
市か観光協会のいずれかで、来場者の年齢層に関する調査はしていますか。

［商工観光課］
各種イベントの来場者数は調査していますが、年齢層の調査はしていません。
年齢層を限ったイベントではなく、幅広い年齢のかたをターゲットとしたメニューで集客を図っているのが現状です。

［委員］
当事業は、観光協会の組織強化を目的とした支援ということですが、評価シートのロジックモデルの活動・手段の欄にある個人・法人会員数の目標人数の達成が果して組織強化につながるのでしょうか。
また、商工観光課として補助金の他に組織強化の手段は考えているのでしょうか、この 2 点について教えてください。

［商工観光課］
会員増によって組織強化が図れるかと言えば、率直に申し上げて難しいと思います。ただし、現在はほぼ市からの補助金のみで運営している状況なので、会員増を

通じて独自財源の確保をはかり、財務体質の強化を図ることは可能です。
なお、補助金以外の支援として、観光協会の事務局として利用している産業会館の使用料を減免しています。

［委員］
そもそも、稲沢市の観光行政における観光協会の位置付け、役割は何なのでしょうか。本来は市が行うべき役割を安価に済ますためにアウトソーシングしているのか、それとも、市の観光行政のイニシアティブを取ってもらうことを期待しているのか、どうなのでしょうか。観光行政のイニシアティブをどこが握っているのかがよく分かりません。話を伺っていると、市の観光のあり方自体も観光協会に丸投げしているようにも見えてしまいます。
市が観光についてどう考えていて、その考えを実現するために観光協会にはどのような役割を果たしてもらうのかが明確でないと評価のしようがありません。

［委員］
繰り返しになりますが、何のために、どう支援しているのかが見えないので、何を判断したらいいのかが分かりません。

［委員］
おそらく観光協会自体が発展途上なのだと思います。将来的には観光のイニシアティブを握ってもらうことを期待しているのですが、現段階では担うことができない。だから、月に1回の打合せで市が主導的な役割を担っている。観光協会が無くなると困るため、支援し続けて 10 年以上経つのだが、機能が高まるどころか機能不全に陥っている。
だからこそ、観光協会が今後一人立ちできるようにもっと支援をしなくてはならないと思います。しかし、補助金や減免などの金銭的な援助では、結局機能は高まらないままので、他の方法を考えなくてはいけないと思います。

［委員］
観光協会の事務局の 4 人というのは、どのようなかたですか。

［商工観光課］
事務局長、次長、主幹の 3 名は市役所 OB のかたで、基本的に 2 年で交代しています。もう一人は臨時職員ですが、観光協会の設立当初からずっと勤務されています。

［委員］
2 年で交代だと、経験の蓄積が期待できません。また人選にも問題があるように感じました。

［委員］
観光協会への補助金である約 2,000 万円ですが、この中身は人件費と商工会議所への事務委託費、賃料がほとんどです。いつまでも金銭を与え続ける前提ではなく、市として、いつまでに、どういう形にするために、どんな補助をするのかを明確にし、人の交流や、会員を増やす取組みに協力したり、他団体との連携を図るなど、計画的な取組みを進めるべきだと思います。
職員についても、市で蓄積した経験、知識、人脈などを活用することができ、人材として最適なのであればいいのですが、この場合もなぜ任期が 2 年なのか、なぜ同じ項目、同じ額の補助が必要なのかは疑問に残るところです。
一刻も早く目標やプロセスを明らかにし、実行していく姿勢を見せてもらいたいと思います。いつまでこの状態を続けているのかというのが正直な感想です。

［商工観光課］
人件費を含む、又は人件費の割合の高い補助金については、財政課からも事業費補助の割合を高めるよう指導を受けています。補助のあり方については今後も検討していきたいと考えます。

［班長］
以上で質疑応答を終了します。
各委員、外部評価結果記入シートへの記入をお願いします。

－委員自己判断－

－最終評価・講評－
［班長］
シートへの記入が終わったようですので、各委員一斉に評価結果の札を挙げてください。

（事務局集計）

［班長］
評価結果を報告させていただきます。

集計の結果、全員「C」評価となりました。よって、委員会の最終評価は「C」とさせていただきます。
それでは、委員の皆様から評価結果に対するコメントをお願いします。

［委員］（評価結果：C）
本音は「D」評価でもいいと思っています。ただし、指摘されている課題は既に担当課も知っていることで、行政の立場で自ら解決することが難しい部分でもあるので、外部評価という招かれた立場の人間が切り込んで発言すべきと思い、いろいろ申し上げました。
観光事業を支援すること自体は反対ではないですが、透明性に欠けている点や、何のために支援しているのかが分からなかったため、大幅な改善が必要と思い「C」評価としました。

［委員］（評価結果：C）
市としての観光行政の位置付けがはっきりしないし、観光に力を入れるという割には観光協会の人員体制もどうかと思いました。そこに補助していくことは疑問を感じざるを得ません。

［委員］（評価結果：C）
市が観光行政の主導権を握っているのであれば、補助金という形だけでなく、アドバイザーとして事業内容や組織強化のための計画などを提示すると良いと思います。

［委員］（評価結果：C）
観光協会の機能不全を解消するためには、事業内容を精査して改める必要があると考えます。

［班長］
以上で、本日の議事である外部評価を終了します。
事務局から何かあれば、よろしくお願いします。

［事務局］
長時間にわたりご審議いただきまして、ありがとうございました。
本日委員の皆様方からいただきました評価結果やご意見などにつきましては、新年度予算への反映を含め、今後の事業への取組みに活用させていただきますので、よろしくお願いします。

それでは、最後に市長公室長からお礼のごあいさつを申し上げます。

○市長公室長あいさつ

本日はお忙しい中、長時間にわたりありがとうございました。

今日は良い評価、そうでない評価がありましたが、それが一般の方々の目線だと思います。その中で、ごみ減量対策事業については、お褒めをいただいたと思っていますし、観光協会支援事業については、方法を改めなくてはいけないと理解しています。すぐに体制が変わるかと言えば難しい面がありますが、今日いただいたご意見につきましては、上層部にも伝えて見直しできるよう努力してまいりたいと思います。

本日は大変お疲れさまでした。ありがとうございました。